別記様式第２号（その１の５）

（用紙　日本産業規格Ａ４横型）

基　本　計　画　書　（　共　同　教　育　課　程　）

事　　項	記入欄			
計画の区分	研究科の専攻の設置			
構成大学の設置者	国立大学法人東京農工大学	学校法人早稲田大学		
構成大学の名称	東京農工大学大学院	早稲田大学大学院		
構成大学の本部の位置	東京都府中市晴見町三丁目8番1号	東京都新宿区戸塚町1丁目104番地		
共同教育課程の名称	共同先進健康科学専攻（Cooperative Major in Advanced Health Science）			14条特例の実施
共同教育課程の目的	共同専攻は、生命科学、食科学ならびに環境科学を中心的な学問分野とし、最高度の教育研究を可能とする博士後期課程である。本専攻はこれらの学問分野を横断するための理学、農学、工学を融合して先進的な健康科学を基幹とし、社会の要請に応える最高度の人材育成を目的としている。先端的な科学技術に立脚した健康科学は新しく、学術界への貢献を目指し、養成した人材を産業界のリーダーとして輩出することが求められている。世界基準に準拠した教育環境において実践的研究の推進に加えてリスク管理と国際コミュニケーション力を駆使し、人類の願いである“健康”に寄与するために先進的な科学技術によって貢献する人材の育成のため本教育課程を設置する。			

共同教育課程の概要

	入学定員	編入学定員	収容定員
東京農工大学大学院	6	-	18
早稲田大学大学院	4	-	12
（第3構成大学）			

修業年限	入学定員（合計）	編入学定員（合計）	収容定員（合計）
3	10	-	30

事項	記入欄
学位	博士（生命科学）（Doctor of Life Science）
学位の分野	理学関係、農学関係、工学関係
開設時期及び開設年次	令和9年4月　第1年次

教育課程（各構成大学が開設する授業科目数）

	講義	演習	実験・実習	計
東京農工大学大学院	9科目	6科目	0科目	15科目
早稲田大学大学院	12科目	6科目	0科目	18科目
（第3構成大学）	科目	科目	科目	科目
合計	20科目	6科目	0科目	26科目

専任教員等

	専任教員 教授	准教授	講師	助教	計	助手	専任教員以外の教員（助手を除く）
東京農工大学大学院	5人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	6人 (7)	0人 (0)	0人 (0)
早稲田大学大学院	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	3人 (3)	0人 (0)	11人 (11)
（第3構成大学）	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()
合計	8人 (9)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (10)	0人 (0)	11人 (11)

	研究指導教員等 教授	准教授	講師	助教	計	その他の教員
東京農工大学大学院	5人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	6人 (7)	0人 (0)
早稲田大学大学院	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	3人 (3)	11人 (11)
（第3構成大学）	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()
合計	8人 (9)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	9人 (10)	11人 (11)

職種	専属	その他	計	専属	その他	計	専属	その他	計
事務職員	191人 (196)	319人 (319)	510人 (515)	1,105人 (1,105)	468人 (468)	1,573人 (1,573)	人 ()	人 ()	人 ()
技術職員	32人 (33)	81人 (81)	113人 (114)	80人 (80)	19人 (19)	99人 (99)	人 ()	人 ()	人 ()
図書館職員	7人 (8)	12人 (12)	19人 (20)	2人 (2)	13人 (13)	15人 (15)	人 ()	人 ()	人 ()
その他の職員	7人 (8)	4人 (4)	11人 (12)	10人 (10)	4人 (4)	14人 (14)	人 ()	人 ()	人 ()
指導補助者	0人 (0)	1,065人 (1,065)	1,065人 (1,065)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	人 ()	人 ()	人 ()
計	237人 (245)	1,481人 (1,481)	1,718人 (1,726)	1,197人 (1,197)	504人 (504)	1,701人 (1,701)	人 ()	人 ()	人 ()

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	専用（合計）	共用（合計）	共用する他の学校等の専用（合計）	計
校舎敷地	266,645 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	266,645 ㎡	1,290,601㎡	75,740㎡	0㎡	1,366,341㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	1,557,246㎡	75,740㎡	0㎡	1,632,986㎡
その他	196,061 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	196,061 ㎡	766,157㎡	0㎡	0㎡	766,157㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	962,218㎡	0㎡	0㎡	962,218㎡
合計	462,706 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	462,706 ㎡	2,056,758㎡	75,740㎡	0㎡	2,132,498㎡	㎡	㎡	㎡	㎡	2,519,464㎡	75,740㎡	0㎡	2,595,204㎡

講義室等	講義室	実験・実習室	演習室
	85 室	535 室	68 室
	689室	398室	372室
	室	室	室

新設研究科等の専任教員研究室	
	6 室
	3室
	室

図書・設備	図書 [うち外国書] 冊	図書 電子冊子 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	学術雑誌 電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械器具	標本
	516,391〔178,811〕 (321,809〔179,936〕)	7,733〔6,892〕 (7,673〔6,883〕)	39,702〔32,457〕 (39,516〔32,271〕)	25,589〔25,467〕 (25,394〔25,272〕)	0 (0)	0 (0)
	413,684〔215,352〕 (413,684〔215,352〕)	745,932〔373,471〕 (745,932〔373,471〕)	8,167〔4,081〕 (8,167〔4,081〕)	199,831〔197,033〕 (199,831〔197,033〕)	9 (9)	0 (0)
	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	〔 〕 (〔 〕)	( )	( )

経費の見積り及び維持方法の概要 区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次
教員1人当り研究費等		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
	415千円	415千円	415千円		— 千円	— 千円
	— 千円	— 千円				
		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
共同研究費等		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
	299千円	299千円	299千円		— 千円	— 千円
	— 千円	— 千円				
		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
図書購入費		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
	2,742千円	2,742千円	2,742千円	2,742千円	2,742千円	2,742千円
	— 千円	— 千円				
		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
設備購入費		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				
	4,489千円	4,489千円	4,489千円	4,489千円	4,489千円	4,489千円
	— 千円	— 千円				
		千円	千円	千円	千円	千円
	千円	千円				

学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次
		千円	千円	千円	千円
	千円				
	907千円	907千円	907千円	— 千円	— 千円
	— 千円				
		千円	千円	千円	千円
	千円				

学生納付金以外の維持方法の概要	
	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入　等

備考	
	国費（運営費交付金による）

大学等の名称	東京農工大学						
研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
	年	人	年次 人	人			
農学部							
生物生産科学科	4	57	－	228	学士（農学）	平成16年度	東京都府中市幸町三丁目５番８号
応用生物科学科	4	71	－	284	学士（農学）	平成16年度	同上
環境資源科学科	4	61	－	244	学士（農学）	平成16年度	同上
地域生態システム学科	4	76	－	304	学士（農学）	平成16年度	同上
共同獣医学科	6	－	－	－	学士（獣医学）	平成24年度 （令和7年度より学生募集停止）	同上
共同獣医学科	6	35	－	70	学士（獣医学）	令和7年度 （学年進行中（2年目））	同上
工学部							
生命工学科	4	81	３年次 11	346	学士（工学）	平成31年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
生体医用システム工学科	4	56	３年次 6	236	学士（工学）	平成31年度	同上
応用化学科	4	81	３年次 10	344	学士（工学）	平成31年度	同上
化学物理工学科	4	81	３年次 7	338	学士（工学）	平成31年度	同上
機械システム工学科	4	102	３年次 16	440	学士（工学）	平成31年度	同上
知能情報システム工学科	4	120	３年次 20	520	学士（工学）	平成31年度	同上
大学全体	－	821	３年次 70	3354	－	－	－

	工学府 （博士前期課程）							
	生命工学専攻	2	－	－	－	修士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
	応用化学専攻	2	－	－	－	修士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	機械システム工学専攻	2	－	－	－	修士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	物理システム工学専攻	2	－	－	－	修士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	電気電子工学専攻	2	－	－	－	修士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	情報工学専攻	2	－	－	－	修士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	生命工学専攻	2	61	－	122	修士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	生体医用システム工学専攻	2	33	－	66	修士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	応用化学専攻	2	54	－	108	修士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	化学物理工学専攻	2	47	－	94	修士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	機械システム工学専攻	2	76	－	152	修士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	知能情報システム工学専攻	2	86	－	172	修士（工学又は学術）	令和5年度	同上

既設研究科等の状況	工学府 （博士後期課程）							
	生命工学専攻	3	－	－	－	博士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
	応用化学専攻	3	－	－	－	博士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	機械システム工学専攻	3	－	－	－	博士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	電子情報工学専攻	3	－	－	－	博士（工学又は学術）	平成16年度 （令和5年度より学生募集停止）	同上
	生命工学専攻	3	14	－	42	博士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	生体医用システム工学専攻	3	5	－	15	博士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	応用化学専攻	3	10	－	30	博士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	化学物理工学専攻	3	6	－	18	博士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	機械システム工学専攻	3	14	－	42	博士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	知能情報システム工学専攻	3	10	－	30	博士（工学又は学術）	令和5年度	同上
	工学府 （後期三年の課程のみの博士課程）							
	共同サステイナビリティ研究専攻	3	4	－	12	博士（学術）	平成31年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
	工学府 （専門職学位課程）							
	産業技術専攻	2	40	－	80	技術経営修士（専門職）	平成23年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
	農学府 （修士課程）							
	農学専攻	2	174	－	348	修士（農学又は学術）	平成31年度	東京都府中市幸町三丁目５番８号
	農学府 （4年制博士課程）							
	共同獣医学専攻	4	10	－	40	博士（獣医学）	平成30年度	東京都府中市幸町三丁目５番８号

生物システム応用科学府 （博士前期課程）							
生物機能システム科学専攻	2	－	－	－	修士（農学、工学又は学術）	平成27年度 （令和7年度より学生募集停止）	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
生物システム応用科学府 （博士後期課程）							
生物機能システム科学専攻	3	12	－	36	博士（農学、工学又は学術）	平成27年度 （令和9年度より学生募集停止）	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
生物システム応用科学府 （一貫制博士課程）							
食料エネルギーシステム科学専攻	5	－	－	－	博士（農学、工学又は学術）	平成27年度 （令和7年度より学生募集停止）	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
生物システム応用科学府 （後期三年の課程のみの博士課程）							
共同先進健康科学専攻	3	6	－	18	博士（生命科学）	平成27年度 （令和9年度より学生募集停止）	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号
先進学際科学府 （博士前期課程）							
先進学際科学専攻	2	99	－	198	修士（農学、工学、学術又は応用情報学）	令和7年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号 東京都府中市幸町三丁目５番８号
連合農学研究科 （後期三年の課程のみの博士課程）							
生物生産科学専攻	3	15	－	45	博士（農学又は学術）	平成19年度	東京都府中市幸町三丁目５番８号
応用生命科学専攻	3	10	－	30	博士（農学又は学術）	平成19年度	同上
環境資源共生科学専攻	3	10	－	30	博士（農学又は学術）	平成19年度	同上
農業環境工学専攻	3	4	－	12	博士（農学又は学術）	平成19年度	同上
農林共生社会科学専攻	3	6	－	18	博士（農学又は学術）	平成19年度	同上
大学院全体	－	806	－	1758	－	－	－

校　　舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	
	130,515 ㎡ （130,515 ㎡）	0 ㎡ （0 ㎡）	0 ㎡ （0 ㎡）	

大学等の名称	早稲田大学						
研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人			
政治経済学部							
政治学科	4	300	－	1200	学士(政治学)	昭和24年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
経済学科	4	400	－	1600	学士(経済学)	昭和24年度	同上
国際政治経済学科	4	200	－	800	学士(国際政治経済学)	平成16年度	同上
法学部	4	740	－	2960	学士(法学)	昭和24年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
文化構想学部							
文化構想学科	4	860	－	3440	学士(文学)	平成19年度	東京都新宿区戸山一丁目２４番１号
文学部							
文学科	4	660	－	2640	学士(文学)	平成19年度	東京都新宿区戸山一丁目２４番１号
教育学部							
教育学科	4	210	－	840	学士(教育学)、学士(心理学)	昭和37年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
国語国文学科	4	135	－	540	学士(文学)	昭和24年度	同上
英語英文学科	4	135	－	540	学士(文学)	昭和24年度	同上
社会科	4	255	－	1020	学士(地理学)、学士(歴史学)、学士(公共市民学)	昭和24年度	同上
理学科	4	80	－	320	学士(理学)	昭和39年度	同上
数学科	4	75	－	300	学士(理学)	平成19年度	同上
複合文化学科	4	70	－	280	学士(学術)	平成19年度	同上

商学部	4	900	－	3600	学士(商学)	昭和24年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
基幹理工学部							
数学科	4	55	－	220	学士(理学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
応用数理学科	4	70	－	280	学士(工学)	平成19年度	同上
情報理工学科	4	95	－	380	学士(工学)	平成19年度	同上
機械科学・航空宇宙学科	4	140	－	560	学士(工学)	平成19年度	同上
電子物理システム学科	4	80	－	320	学士(工学)、学士（理学）	平成19年度	同上
表現工学科	4	60	－	240	学士(工学)	平成19年度	同上
情報通信学科	4	95	－	380	学士(工学)	平成26年度	同上
創造理工学部							
建築学科	4	160	－	640	学士(建築学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
総合機械工学科	4	160	－	640	学士(工学)	平成19年度	同上
経営システム工学科	4	120	－	480	学士(工学)	平成19年度	同上
社会環境工学科	4	90	－	360	学士(工学)	平成19年度	同上
環境資源工学科	4	65	－	260	学士(工学)	平成19年度	同上
先進理工学部							
物理学科	4	50	－	200	学士(理学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
応用物理学科	4	90	－	360	学士(工学)	平成19年度	同上
化学・生命化学科	4	60	－	240	学士(理学)	平成19年度	同上
応用化学科	4	135	－	540	学士(工学)	平成19年度	同上
生命医科学科	4	60	－	240	学士(工学)、学士（理学）	平成19年度	同上
電気・情報生命工学科	4	145	－	580	学士(工学)	平成19年度	同上

社会科学部							
社会科学科	4	630	―	2520	学士(社会科学)	昭和41年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
人間科学部							
人間環境科学科	4	200	―	800	学士(人間科学)	平成15年度	埼玉県所沢市三ヶ島二丁目５７９番１５号
健康福祉科学科	4	200	―	800	学士(人間科学)	平成15年度	同上
人間情報科学科	4	160	―	640	学士(人間科学)	平成15年度	同上
スポーツ科学部							
スポーツ科学科	4	400	―	1600	学士(スポーツ科学)	平成22年度	埼玉県所沢市三ヶ島二丁目５７９番１５号
国際教養学部							
国際教養学科	4	600	―	2400	学士(国際教養学)	平成16年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
人間科学部(通信教育課程)							
人間環境科学科	4	50	50	350	学士(人間科学)	平成15年度	埼玉県所沢市三ヶ島二丁目５７９番１５号
健康福祉科学科	4	50	50	350	学士(人間科学)	平成15年度	同上
人間情報科学科	4	50	50	350	学士(人間科学)	平成15年度	同上
大学全体	―	9,090	―	36,810			
政治学研究科							
政治学専攻							
(修士課程)	2	135	―	270	修士(政治学)、修士(ジャーナリズム)、修士（公共政策）	昭和26年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
(博士後期課程)	3	30	―	90	博士(政治学)、博士（公共政策）、博士(ジャーナリズム)	昭和28年度	同上

経済学研究科							
経済学専攻							
（修士課程）	2	100	－	200	修士（経済学）、修士（国際政治経済学）	平成22年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
（博士後期課程）	3	40	－	120	博士（経済学）	平成22年度	同上
法学研究科							
民事法学専攻							
（修士課程）	2	35	－	70	修士（法学）	昭和26年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
（博士後期課程）	3	22	－	66	博士（法学）	昭和28年度	同上
公法学専攻							
（修士課程）	2	15	－	30	修士（法学）	昭和26年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
（博士後期課程）	3	18	－	54	博士（法学）	昭和28年度	同上
基礎法学専攻							
（修士課程）	2	10	－	20	修士（法学）	昭和26年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
先端法学専攻							
（修士課程）	1	20	－	20	修士（先端法学）	平成30年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
法曹養成専攻							
（法科大学院）	3	200	－	400	法務博士（専門職）	令和7年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
文学研究科							
人文科学専攻							
（修士課程）	2	210	－	420	修士（文学）	平成19年度	東京都新宿区戸山一丁目２４番１号
（博士後期課程）	3	155	－	465	博士（文学）	平成19年度	同上

商学研究科							
商学専攻							
（修士課程）	2	80	－	160	修士（商学）	昭和26年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
（博士後期課程）	3	40	－	120	博士（商学）	昭和28年度	同上
基幹理工学研究科							
数学応用数理専攻							
（修士課程）	2	90	－	180	修士（工学）、修士（理学）	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
（博士後期課程）	3	25	－	75	博士（工学）、博士（理学）	平成19年度	同上
機械科学・航空宇宙専攻							
（修士課程）	2	115	－	230	修士（工学）	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
（博士後期課程）	3	20	－	60	博士（工学）	平成19年度	同上
電子物理システム学専攻							
（修士課程）	2	45	－	90	修士（工学）、修士（理学）	平成22年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
（博士後期課程）	3	7	－	21	博士（工学），博士（理学）	平成22年度	同上
表現工学専攻							
（修士課程）	2	45	－	90	修士（工学）	平成22年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
（博士後期課程）	3	8	－	24	博士（工学）	平成22年度	同上
情報理工・情報通信専攻							
（修士課程）	2	140	－	280	修士（工学）	平成26年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
（博士後期課程）	3	40	－	120	博士（工学）	平成26年度	同上
材料科学専攻							
（修士課程）	2	30	－	60	修士（工学）、修士（理学）	平成31年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
（博士後期課程）	3	10	－	30	博士（工学），博士（理学）	平成31年度	同上

既設研究科等の状況	創造理工学研究科							
	建築学専攻							
	（修士課程）	2	125	－	250	修士(工学)、修士(建築学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	20	－	60	博士(工学)、博士(建築学)	平成19年度	同上
	総合機械工学専攻							
	（修士課程）	2	100	－	200	修士(工学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	12	－	36	博士(工学)	平成19年度	同上
	経営システム工学専攻							
	（修士課程）	2	55	－	110	修士(工学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	10	－	30	博士(工学)	平成19年度	同上
	経営デザイン専攻							
	（修士課程）	2	45	－	90	修士（経営工学）	平成22年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	10	－	30	博士（経営工学）	平成22年度	同上
	建設工学専攻							
	（修士課程）	2	70	－	140	修士(工学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	12	－	36	博士(工学)	平成19年度	同上
	地球・環境資源理工学専攻							
	（修士課程）	2	90	－	180	修士(工学)、修士(理学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	15	－	45	博士(工学)、博士(理学)	平成19年度	同上
	先進理工学研究科							
	物理学及応用物理学専攻							
	（修士課程）	2	105	－	210	修士(工学)、修士(理学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	20	－	60	博士(工学)、博士(理学)	平成19年度	同上
	化学・生命化学専攻							
	（修士課程）	2	50	－	100	修士(理学)	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	8	－	24	博士(理学)	平成19年度	同上

	応用化学専攻							
	（修士課程）	2	90	－	180	修士（工学）	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	23	－	69	博士（工学）	平成19年度	同上
	生命医科学専攻							
	（修士課程）	2	60	－	120	修士（工学）、修士（理学）	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	10	－	30	博士（工学）、博士（理学）	平成19年度	同上
	電気・情報生命専攻							
	（修士課程）	2	125	－	250	修士（工学）、修士（理学）	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	14	－	42	博士（工学）、博士（理学）	平成19年度	同上
	生命理工学専攻							
	（修士課程）	2	70	－	140	修士（工学）、修士（理学）	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	15	－	45	博士（工学）、博士（理学）	平成19年度	同上
	ナノ理工学専攻							
	（修士課程）	2	35	－	70	修士（工学）、修士（理学）	平成19年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	7	－	21	博士（工学）、博士（理学）	平成19年度	同上
	先進理工学専攻							
	（一貫制博士課程）	5	15	－	75	博士（工学）、博士（理学）	平成26年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	共同先端生命医科学専攻							
	（博士後期課程）	3	5	－	15	博士（生命医科学）	平成22年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	共同先進健康科学専攻							
	（博士後期課程）	3	4	－	12	博士（生命科学）	平成22年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	共同原子力専攻							
	（修士課程）	2	15	－	30	修士（工学）、修士（理学）	平成22年度	東京都新宿区大久保三丁目４番１号
	（博士後期課程）	3	4	－	12	博士（工学）、博士（理学）	平成22年度	同上

教育学研究科							
学校教育専攻							
（修士課程）	2	30	－	60	修士（教育学）	平成2年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
国語教育専攻							
（修士課程）	2	21	－	42	修士（教育学）	平成2年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
英語教育専攻							
（修士課程）	2	21	－	42	修士（教育学）	平成2年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
社会科教育専攻							
（修士課程）	2	27	－	54	修士（教育学）	平成2年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
数学教育専攻							
（修士課程）	2	18	－	36	修士（教育学）、修士（理学）	平成10年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
教育基礎学専攻							
（博士後期課程）	3	11	－	33	博士（教育学）	平成7年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
教科教育学専攻							
（博士後期課程）	3	20	－	60	博士（教育学）、博士（理学）	平成7年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
高度教職実践専攻							
（専門職学位課程）	2	60	－	120	教職修士（専門職）	平成29年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
人間科学研究科							
人間科学専攻							
（修士課程）	2	120	－	240	修士（人間科学）、修士（実践人間科学）	平成15年度	埼玉県所沢市三ヶ島二丁目５７９番１５号
（博士後期課程）	3	45	－	135	博士（人間科学）	平成15年度	同上

社会科学研究科							
地球社会論専攻							
（修士課程）	2	30	－	60	修士（社会科学）	平成6年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
（博士後期課程）	3	12	－	36	博士（社会科学）	平成8年度	同上
政策科学論専攻							
（修士課程）	2	30	－	60	修士（社会科学）	平成6年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
（博士後期課程）	3	12	－	36	博士（社会科学）	平成8年度	同上
スポーツ科学研究科							
スポーツ科学専攻							
（修士課程）	2	140	－	280	修士（スポーツ科学）	平成18年度	埼玉県所沢市三ヶ島二丁目５７９番１５号
（博士後期課程）	3	30	－	90	博士（スポーツ科学）	平成18年度	同上
アジア太平洋研究科							
国際関係学専攻							
（修士課程）	2	120	－	240	修士（国際関係学）	平成10年度	東京都新宿区西早稲田一丁目２１番１号
（博士後期課程）	3	30	－	90	博士（学術）	平成12年度	同上
日本語教育研究科							
日本語教育学専攻							
（修士課程）	2	50	－	100	修士（日本語教育学）	平成13年度	東京都新宿区西早稲田一丁目７番１４号
（博士後期課程）	3	15	－	45	博士（日本語教育学）	平成15年度	同上
情報生産システム研究科							
情報生産システム工学専攻							
（修士課程）	2	200	－	400	修士（工学）	平成15年度	福岡県北九州市若松区ひびきの２番７号
（博士後期課程）	3	20	－	60	博士（工学）	平成15年度	同上

	法務研究科 法務専攻 （法科大学院）	3	－	－	－	法務博士（専門職）	平成16年度 （令和7年度より学生募集停止）	東京都新宿区西早稲田一丁目２１番１号
	会計研究科 会計専攻 （専門職大学院）	2	100	－	200	会計修士（専門職）	平成17年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
	環境・エネルギー研究科 環境・エネルギー専攻 （修士課程）	2	50	－	100	修士（工学）、修士（学術）	平成19年度	東京都新宿区西早稲田一丁目３番10号
	（博士後期課程）	3	7	－	21	博士（工学）	平成19年度	同上
	国際コミュニケーション研究科 国際コミュニケーション研究専攻 （修士課程）	2	50	－	100	修士（国際コミュニケーション学）	平成25年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
	（博士後期課程）	3	10	－	30	博士（国際コミュニケーション学）	平成25年度	同上
	経営管理研究科 経営管理専攻 （専門職大学院）	2	255	－	510	経営管理修士（専門職）、ファイナンス修士（専門職）	平成28年度	東京都新宿区西早稲田一丁目６番１号
	大学院全体	－	4458		9757			

	専用	共用	共用する他の 学校等の専用	
校　　舎	546,703㎡ (546,703㎡)	11,194㎡ (　　11,194㎡)	0㎡ (　　0㎡)	

別記様式第２号（その１の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画										
事　項		記　入　欄								備　考
計画の区分										
フリガナ 設置者		ｺｸﾘﾂﾀﾞｲｶﾞｸﾎｳｼﾞﾝﾄｳｷｮｳﾉｳｺｳﾀﾞｲｶﾞｸ 国立大学法人東京農工大学								
フリガナ 大学の名称		ﾄｳｷｮｳﾉｳｺｳﾀﾞｲｶﾞｸﾀﾞｲｶﾞｸｲﾝ 東京農工大学大学院（Graduate School, Tokyo University of Agriculture and Technology）								
大学本部の位置		東京都府中市晴見町三丁目8番1号								
大学の目的		東京農工大学は、20世紀の社会と科学技術が顕在化させた「持続発展可能な社会の実現」に向けた課題を正面から受け止め、農学、工学およびその融合領域における自由な発想に基づく教育研究を通して、世界の平和と社会や自然環境と調和した科学技術の進展に貢献するとともに、課題解決とその実現を担う人材の育成と知の創造に邁進することを基本理念とする。 東京農工大学は、この基本理念を「使命志向型教育研究－美しい地球持続のための全学的努力」（MORE SENSE：Mission Oriented Research and Education giving Synergy in Endeavors toward a Sustainable Earth）と標榜し、自らの存在と役割を明示して、21世紀の人類が直面している課題の解決に真摯に取り組む。								
新設研究科等の目的										
新設研究科等の概要	新設研究科等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる研究科等】生物システム応用科学府共同先進健康科学専攻 14条特例の実施
	計	年	人	年次 人	人			年 月 第　年次		
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		生物システム応用科学府（廃止） 生物機能システム科学専攻（博士後期課程）（廃止）　（△12） 共同先進健康科学専攻（後期3年の課程のみの博士課程）（廃止）　（△6） ※令和9年4月学生募集停止 先進学際科学府 先進学際科学専攻（修士課程→博士前期課程）　（99）　（令和8年4月事前相談） ※令和9年4月課程変更 共同先進健康科学専攻（後期3年の課程のみの博士課程）　（6）　（令和8年1月事前相談）								
教育課程	新設研究科等の名称	開設する授業科目の総数						修了要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計					
		科目	科目	科目	科目			単位		
研究科等の名称		専任教員					助手	専任教員以外の教員（助手を除く）		
		教授	准教授	講師	助教	計				
分 新設		人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()	人 ()		
	計	()	()	()	()	()	()	()		

既設分	工学府 （博士前期課程） 生命工学専攻	18 (18)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	6 (6)
	生体医用システム工学専攻	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)
	応用化学専攻	11 (11)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	6 (6)
	化学物理工学専攻	9 (9)	10 (10)	2 (2)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	13 (13)
	機械システム工学専攻	16 (16)	19 (19)	4 (4)	0 (0)	39 (39)	0 (0)	11 (11)
	知能情報システム工学専攻	27 (27)	15 (15)	1 (1)	0 (0)	43 (43)	0 (0)	7 (7)
	（博士後期課程） 生命工学専攻	17 (17)	11 (11)	1 (1)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	5 (5)
	生体医用システム工学専攻	7 (7)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	7 (7)
	応用化学専攻	11 (11)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	19 (19)	0 (0)	9 (9)
	化学物理工学専攻	10 (10)	10 (10)	0 (0)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	8 (8)
	機械システム工学専攻	17 (17)	19 (19)	1 (1)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	14 (14)
	知能情報システム工学専攻	27 (27)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	40 (40)	0 (0)	10 (10)
	（後期三年の課程のみの博士課程） 共同サステイナビリティ研究専攻	3 (3)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	（専門職学位課程） 産業技術専攻	8 (8)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	12 (12)
	農学府 （修士課程） 農学専攻	44 (48)	40 (45)	8 (8)	10 (11)	102 (112)	0 (0)	0 (0)
	（4年制博士課程） 共同獣医学専攻	15 (16)	24 (24)	1 (1)	3 (3)	43 (44)	0 (0)	0 (0)
	先進学際科学府 （博士前期課程） 先進学際科学専攻	18 (20)	14 (14)	1 (1)	0 (0)	33 (35)	0 (0)	0 (0)
	連合農学研究科 （後期三年の課程のみの博士課程） 生物生産科学専攻	29 (36)	21 (22)	1 (1)	4 (4)	55 (63)	0 (0)	4 (4)
	応用生命科学専攻	13 (18)	10 (10)	0 (0)	2 (2)	25 (30)	0 (0)	4 (4)
	環境資源共生科学専攻	14 (15)	13 (15)	2 (2)	1 (1)	30 (33)	0 (0)	4 (4)
	農業環境工学専攻	11 (15)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	20 (24)	0 (0)	4 (4)
	農林共生社会科学専攻	6 (7)	8 (9)	5 (5)	2 (2)	21 (23)	0 (0)	4 (4)
	計	338 (363)	275 (284)	35 (35)	23 (24)	671 (706)	0 (0)	－ (－)
合計		362 (390)	289 (298)	36 (36)	23 (24)	710 (748)	0 (0)	－ (－)

職種	専属	その他	計
事務職員	人 191 (196)	人 319 (319)	人 510 (515)
技術職員	32 (33)	81 (81)	113 (114)
図書館職員	7 (8)	12 (12)	19 (20)
その他の職員	7 (8)	4 (4)	11 (12)
指導補助者	0 (0)	1,065 (1,065)	1,065 (1,065)
計	237 (245)	1,481 (1,481)	1,718 (1,726)

校地等 区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
校舎敷地	266,645 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	266,645 ㎡
その他	196,061 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	196,061 ㎡
合計	462,706 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	462,706 ㎡

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計
	130,515 ㎡ (130,515 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	130,515 ㎡ (130,515 ㎡)

講義室等・新設研究科等の専任教員研究室	講義室	実験・実習室	演習室	新設研究科等の専任教員研究室	大学全体
	85 室	535 室	68 室	6 室	

図書・設備	新設研究科等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	電子図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	
	共同先進健康科学専攻（後期3年の課程のみの博士課程）	516,391〔178,811〕 (521,809〔179,936〕)	7,733〔6,892〕 (7,673〔6,883〕)	39,702〔32,457〕 (39,516〔32,271〕)	25,589〔25,467〕 (25,394〔25,272〕)	0 (0)	0 (0)	大学全体
	計	516,391〔178,811〕 (521,809〔179,936〕)	7,733〔6,892〕 (7,673〔6,883〕)	39,702〔32,457〕 (39,516〔32,271〕)	25,589〔25,467〕 (25,394〔25,272〕)	0 (0)	0 (0)	

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		千円	千円	千円	千円	千円	国費（運営費交付金による）
	共同研究費等		千円	千円	千円	千円	千円	
	図書購入費	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
	設備購入費	千円	千円	千円	千円	千円	千円	
	学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	
			千円	千円	千円	千円	千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要							

大学等の名称	東京農工大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍			
農学部									
生物生産科学科	4	57	－	228	学士（農学）	1.07 《1.06》	平成16年度	東京都府中市幸町三丁目５番８号	
応用生物科学科	4	71	－	284	学士（農学）	1.05 《1.02》	平成16年度	同上	
環境資源科学科	4	61	－	244	学士（農学）	1.11 《1.08》	平成16年度	同上	
地域生態システム学科	4	76	－	304	学士（農学）	1.09 《1.06》	平成16年度	同上	
共同獣医学科	6	－	－	－	学士（獣医学）	－	平成24年度	同上	令和7年度より学生募集停止
共同獣医学科	6	35	－	70	学士（獣医学）	1.12 《1.12》	令和7年度	同上	学年進行中（2年目）
工学部									
生命工学科	4	81	３年次 11	346	学士（工学）	1.06 《1.03》	平成31年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号	
生体医用システム工学科	4	56	３年次 6	236	学士（工学）	1.08 《1.02》	平成31年度	同上	
応用化学科	4	81	３年次 10	344	学士（工学）	1.03 《1.02》	平成31年度	同上	
化学物理工学科	4	81	３年次 7	338	学士（工学）	1.07 《1.03》	平成31年度	同上	
機械システム工学科	4	102	３年次 16	440	学士（工学）	1.11 《1.05》	平成31年度	同上	
知能情報システム工学科	4	120	３年次 20	520	学士（工学）	1.11 《1.06》	平成31年度	同上	
大学全体	－	821	３年次 70	3354	－	－	－	－	

既設大学等の状況	工学府 （博士前期課程）									
	生命工学専攻	2	－	－	－	修士 （工学又は学術）	－	平成16年度	東京都小金井市中町 二丁目２４番１６号	令和5年度より 学生募集停止
	応用化学専攻	2	－	－	－	修士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	機械システム工学専攻	2	－	－	－	修士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	物理システム工学専攻	2	－	－	－	修士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	電気電子工学専攻	2	－	－	－	修士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	情報工学専攻	2	－	－	－	修士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	生命工学専攻	2	61	－	122	修士 （工学又は学術）	1.09	令和5年度	同上	
	生体医用システム工学専攻	2	33	－	66	修士 （工学又は学術）	1.09	令和5年度	同上	
	応用化学専攻	2	54	－	108	修士 （工学又は学術）	1.06	令和5年度	同上	
	化学物理工学専攻	2	47	－	94	修士 （工学又は学術）	1.14	令和5年度	同上	
	機械システム工学専攻	2	76	－	152	修士 （工学又は学術）	1.02	令和5年度	同上	
	知能情報システム工学専攻	2	86	－	172	修士 （工学又は学術）	1.18	令和5年度	同上	
	工学府 （博士後期課程）									
	生命工学専攻	3	－	－	－	博士 （工学又は学術）	－	平成16年度	東京都小金井市中町 二丁目２４番１６号	令和5年度より 学生募集停止
	応用化学専攻	3	－	－	－	博士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	機械システム工学専攻	3	－	－	－	博士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	電子情報工学専攻	3	－	－	－	博士 （工学又は学術）	－	平成16年度	同上	令和5年度より 学生募集停止
	生命工学専攻	3	14	－	42	博士 （工学又は学術）	1.60	令和5年度	同上	
	生体医用システム工学専攻	3	5	－	15	博士 （工学又は学術）	1.50	令和5年度	同上	
	応用化学専攻	3	10	－	30	博士 （工学又は学術）	1.25	令和5年度	同上	
	化学物理工学専攻	3	6	－	18	博士 （工学又は学術）	2.33	令和5年度	同上	
	機械システム工学専攻	3	14	－	42	博士 （工学又は学術）	1.67	令和5年度	同上	
	知能情報システム工学専攻	3	10	－	30	博士 （工学又は学術）	3.20	令和5年度	同上	
	工学府 （後期三年の課程のみの博士課程）									
	共同サステイナビリティ研究専攻	3	4	－	12	博士（学術）	0.41	平成31年度	東京都小金井市中町 二丁目２４番１６号	
	工学府 （専門職学位課程）									
	産業技術専攻	2	40	－	80	技術経営修士 （専門職）	1.05	平成23年度	東京都小金井市中町 二丁目２４番１６号	
	農学府 （修士課程）									
	農学専攻	2	174	－	348	修士 （農学又は学術）	1.32	平成31年度	東京都府中市幸町 三丁目５番８号	

	農学府 （4年制博士課程）									
	共同獣医学専攻	4	10	—	40	博士（獣医学）	1.90	平成30年度	東京都府中市幸町三丁目５番８号	
	生物システム応用科学府 （博士前期課程）									
	生物機能システム科学専攻	2	—	—	—	修士（農学、工学又は学術）	—	平成27年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号	令和7年度より学生募集停止
	生物システム応用科学府 （博士後期課程）									
	生物機能システム科学専攻	3	—	—	—	博士（農学、工学又は学術）	—	平成27年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号	令和9年度より学生募集停止
	生物システム応用科学府 （一貫制博士課程）									
	食料エネルギーシステム科学専攻	5	—	—	—	博士（農学、工学又は学術）	—	平成27年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号	令和7年度より学生募集停止
	生物システム応用科学府 （後期三年の課程のみの博士課程）									
	共同先進健康科学専攻	3	—	—	—	博士（生命科学）	—	平成22年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号	令和9年度より学生募集停止
	先進学際科学府 （博士前期課程）									
	先進学際科学専攻	2	99	—	198	修士（農学、工学、学術又は応用情報学）	—	令和7年度	東京都小金井市中町二丁目２４番１６号	
	連合農学研究科 （後期三年の課程のみの博士課程）									
	生物生産科学専攻	3	15	—	45	博士（農学又は学術）	1.93	平成19年度	東京都府中市幸町三丁目５番８号	
	応用生命科学専攻	3	10	—	30	博士（農学又は学術）	1.06	平成19年度	同上	
	環境資源共生科学専攻	3	10	—	30	博士（農学又は学術）	2.03	平成19年度	同上	
	農業環境工学専攻	3	4	—	12	博士（農学又は学術）	2.16	平成19年度	同上	
	農林共生社会科学専攻	3	6	—	18	博士（農学又は学術）	1.83	平成19年度	同上	
	大学院全体	—	806	—	1758	—	—	—	—	

名称：グローバル教育院

目的：国際教育交流に関する全学的事業の推進及び支援、教養教育の企画及び実施、入試戦略及び支援、その他全学に係る教育に関する業務を実施するための組織として、東京農工大学での教育活動を通して、農学又は工学の専門性を持ち、教養豊かで国際社会において活躍できる人材を育成することを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号、東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成３０年４月

規模等：建物284㎡

名称：図書館

目的：図書の貸出、文献複写等のサービスの提供により、重要な学術情報基盤として大学の教育研究活動を支援することを目的とする。

所在地：府中図書館・東京都府中市幸町三丁目5番8号　小金井図書館・東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：昭和２４年４月

規模等：府中図書館：建物3,428㎡、小金井図書館：建物3,479㎡

名称：研究マネジメント機構

目的：研究マネジメントを総合的に行い、関連する人材の管理、育成を計画的かつ柔軟に行うことにより本学の研究力及び社会課題解決力の向上を図ることを目的とする。

所在地：研究マネジメント機構：東京都小金井市中町二丁目24番16号
研究マネジメント機構・西東京国際イノベーション共創拠点：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：令和８年４月

規模等：（小金井）建物5,546㎡、（府中）建物3,629㎡

名称：健康・相談総合支援機構

目的：本学の学生、役員及び職員の保健管理、ハラスメント・性暴力等相談に関する専門的業務を遂行することを目的とする。

所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号・東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：令和７年４月

規模等：建物678㎡

名称：総合情報メディアセンター

目的：全学共同利用施設として、時代に即した高度な情報通信技術と多種多様なサービスを取り入れた学術情報基盤システムの整備、教育研究の側面から全学の活動に資する情報通信システムの整備と拡充、ICT基盤や情報メディアの高度利用に関する研究開発を推進することを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成１４年４月

規模等：建物1,475㎡

名称：学術研究支援総合センター

目的：学術研究の総合的な推進支援機能の整備・充実を図り、各種大型機器等の基盤的設備の計画的かつ集中的管理・共同利用、遺伝子組換え実験・遺伝子組換え生物等の使用等により生ずる生物多様性影響の防止に関する安全管理及び分析技術・遺伝子ゲノム科学技術の研究開発等を行い、もって教育研究の進展に資することを目的とする。

所在地：遺伝子実験施設・東京都府中市幸町三丁目5番8号

機器分析施設・東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成２０年４月

規模等：遺伝子実験施設・建物1,640㎡　機器分析施設・604㎡

名称：科学博物館

目的：教育研究分野及びその他科学の分野に関する資料の収集、保管、展示、公開及び調査研究並びに学芸員課程の運営を行うとともに、本学の教育研究活動及び社会貢献活動に寄与することを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成２０年４月

規模等：建物3,008㎡

附属施設の概要	名称：環境安全管理センター 目的：本学の教職員および学生が安全で安心な教育研究を実施できる環境を整備するとともに、社会に対しては大学から「公害」を出さない環境の確保、省エネ環境・温暖化抑制環境の整備をすることを目的とする。 所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号 設置年月：平成２０年１１月 規模等：建物199㎡ 名称：放射線研究室 目的：放射性同位元素等の規制に関する法律第3条の規定に基づき、使用の許可を受けた本学の農学部事業所及び工学部事業所について、本学の教育研究施設としての役割を果たし、放射性同位元素等を使用して行う教育研究を支援することを目的とする。 所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号、東京都小金井市中町二丁目24番16号 設置年月：平成２０年４月 規模等：建物585㎡ 名称：未来価値創造研究教育特区 目的：自由な発想で尖端研究を行う時限的な特区ラボを「場」に、尖端研究力及び社会展開力を持つ人材養成を行うことを目的とする。特区ラボにおける若手主宰研究者と大学院生の尖端研究環境及び研究成果の社会実装へのサポート体制を整備することで、社会に寄与する研究教育と大学院生の待遇向上とを同時に実現することを目的とする。 所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号 設置年月：令和３年４月 規模等：建物93㎡ 名称：スマートコアファシリティー推進機構 目的：文部科学省「先端研究基盤共用促進事業コアファシリティ構築支援プログラム」を全学的な視点から運営している。本学の重点研究分野であるライフサイエンス、食料、エネルギーの各分野を支える基盤設備である電子顕微鏡、NMR、質量分析計、分光装置等をコアファシリティとして集約し、これらの機器を熟知し優れた専門知識を有する技術スタッフが、本学研究者・学生および学外の利用者に対し最先端の分析技術と技術支援を提供することを目的とする。 所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号 設置年月：令和３年１１月 規模等：建物602㎡ 名称：西東京三大学共同サステイナビリティ国際社会実装研究センター 目的：東京農工大学、電気通信大学及び東京外国語大学における共同専攻の「教育」実績を基盤に、三大学で構築した国際ネットワークを通じて、相手国の大学・地域における最新の研究・社会実装ニーズの掘り起こし、「研究」活動と、これらの研究成果を生かした「社会実装」活動にまで、三大学連携を拡大・充実させることを目的とする。 所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号 設置年月：令和４年４月 規模等：建物189㎡	

名称：小金井動物救急医療センター

目的：伴侶動物とともに健康で生きがいのある地域社会の実現に向けて、一次診療施設との連携を図るとともに、高度専門診療を担う動物医療センター（府中）との連携により、さらなる獣医療の高度化に貢献し、獣医学臨床実習を通じた学生や研修医への教育の場、工学部との医工獣連携等による生命科学分野の先端臨床研究の場として、社会に広く貢献できる人材育成ならびに知の創出と実践に取り組むことを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：令和４年１１月

規模等：建物2,983㎡

名称：ワンウェルフェア高等研究所

目的： 本学の強み及び実績を有している獣医学・工学・農学分野における学術研究分野を基軸に、分野を跨いだ技術の融合による研究開発を推進し、ヒトと動物そして自然環境を医療・健康・福祉と一体的に扱う「ワンウェルフェア」分野における頭脳循環の国際的なハブとして、国際ネットワークの強化及びグローバルな課題解決に貢献することを目的とする。

所在地：東京都府中市晴見町三丁目8番1号、東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：令和７年４月

規模等：建物379㎡

名称：フロンティア農学教育研究機構

目的：広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター、動物医療センター、硬蛋白質利用研究施設、感染症未来疫学研究センター、先進植物工場研究施設および野生動物管理教育研究センターの６農学部附属施設／センターから構成され、各附属施設の独立性を維持しつつも、各附属施設が保有する資源を最大限に活用し、地域貢献および収益機能をより強化することを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：令和元年４月

規模等：建物867㎡

名称：農学部附属広域都市圏フィールドサイエンス教育研究センター

目的：自然林、二次林、農地、都市緑地などの多様なフィールドを有機的に結びつけ、環境科学、生物生産科学、森林科学、生態学、獣医学などの分野において、広い視野と手法の融合により、人と自然のあるべき関係を追究し、食糧問題や環境問題などのフィールド科学に関わる様々な課題に取り組むことを目的とする。

所在地：(フィールドミュージアム府中)東京都府中市幸町三丁目5番8号

(フィールドミュージアム本町)東京都府中市本町三丁目7番7号

(フィールドミュージアム津久井)神奈川県相模原市緑区長竹志田口3657番地1

(フィールドミュージアム多摩丘陵)東京都八王子市堀之内1528

(フィールドミュージアム草木)群馬県みどり市東町草木1582

(フィールドミュージアム大谷山)群馬県みどり市東町神戸277

(フィールドミュージアム唐沢山)栃木県佐野市栃本町1

(フィールドミュージアム秩父)埼玉県秩父市大滝椚平1840番地2

設置年月：平成１２年４月

規模等：土地9,426,437㎡、建物10,382㎡

名称：農学部附属動物医療センター

目的：本学農学部の学生、大学院生の臨床教育施設および免許を有する獣医師の卒後臨床教育施設としての役割を担うとともに、近年獣医療の高度化に大きな期待が寄せられるなか、関東圏における二次診療施設の一つとして先進的な医療技術を提供することを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：平成２０年７月

規模等：建物2,601㎡

名称：農学部附属硬蛋白質利用研究施設

目的：動物の主要部分を構成する硬蛋白質（コラーゲン、エラスチン、ケラチンなどの細胞外マトリックスを構成するタンパク質）および関連する生体分子について、基礎から応用にわたる動物資源利用に関する研究を総合的に発展させることを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：昭和５１年４月

規模等：建物815㎡

名称：農学部附属フロンティア農学教育研究センター

目的：フロンティア農学の研究展開とそれらの学部教育および大学院教育への活用を促進することを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：平成２０年６月

規模等：建物867㎡

名称：農学部附属感染症未来疫学研究センター

目的：未来感染症ユニット、危機対策ユニット、マネジメントユニットからなり、国内外の重要な動物感染症や人獣共通感染症の研究を行い、これまで後手に回っていた新興感染症の対策を先回り防疫することにより被害を未然に防ぐことを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：令和３年４月

規模等：建物251㎡

名称：農学部附属野生動物管理教育研究センター

目的：持続的な野生動物管理教育研究拠点及び国際野生動物管理コンソーシアムの創設、科学的な野生動物管理システムの構築並びにそれらの担い手となる人材育成を行うことを目的とする。

所在地：東京都府中市幸町三丁目5番8号

設置年月：令和４年４月

規模等：建物74㎡

名称：工学部附属ものづくり創造工学センター

目的：学生がものづくりに関する実験・実習を行う場であり、研究活動に必要な装置の製作について協力と支援を行う施設として学内の研究教育活動を支えることを目的とする。

所在地：東京都小金井市中町二丁目24番16号

設置年月：平成１９年４月

規模等：建物751㎡

国立大学法人東京農工大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員
東京農工大学			
農学部			
生物生産学科	57	－	228
応用生物科学科	71	－	284
環境資源科学科	61	－	244
地域生態システム学科	76	－	304
共同獣医学科(6年制)	35	－	210
工学部		3年次	
生命工学科	81	11	346
生体医用システム工学科	56	6	236
応用化学科	81	10	344
化学物理工学科	81	7	338
機械システム工学科	102	16	440
知能情報システム工学科	120	20	520
	821	3年次 70	3,494
東京農工大学大学院			
工学府			
生命工学専攻(M)	61	－	122
生命工学専攻(D)	14	－	42
生体医用システム工学専攻(M)	33	－	66
生体医用システム工学専攻(D)	5	－	15
応用化学専攻(M)	54	－	108
応用化学専攻(D)	10	－	30
化学物理工学専攻(M)	47	－	94
化学物理工学専攻(D)	6	－	18
機械システム工学専攻(M)	76	－	152
機械システム工学専攻(D)	14	－	42
知能情報システム工学専攻(M)	86	－	172
知能情報システム工学専攻(D)	10	－	30
産業技術専攻(P)	40	－	80
共同サステイナビリティ研究専攻(D)	4	－	12
農学府			
農学専攻(M)	174	－	348
共同獣医学専攻(4年制D)	10	－	40
生物システム応用科学府			
生物機能システム科学専攻(D)	12	－	36
共同先進健康科学専攻(D)	6	－	18
先進学際科学府			
先進学際科学専攻(M)	99	－	198
連合農学研究科			
生物生産科学専攻(D)	15	－	45
応用生命科学専攻(D)	10	－	30
環境資源共生科学専攻(D)	10	－	30
農業環境工学専攻(D)	4	－	12
農林共生社会科学専攻(D)	6	－	18
	806		1,758

令和9年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
東京農工大学				
農学部				
生物生産学科	57	－	228	
応用生物科学科	71	－	284	
環境資源科学科	61	－	244	
地域生態システム学科	76	－	304	
共同獣医学科(6年制)	35	－	210	
工学部		3年次		
生命工学科	81	11	346	
生体医用システム工学科	56	6	236	
応用化学科	81	10	344	
化学物理工学科	81	7	338	
機械システム工学科	102	16	440	
知能情報システム工学科	120	20	520	
	821	3年次 70	3,494	
東京農工大学大学院				
工学府				
生命工学専攻(M)	61	－	122	
生命工学専攻(D)	14	－	42	
生体医用システム工学専攻(M)	33	－	66	
生体医用システム工学専攻(D)	5	－	15	
応用化学専攻(M)	54	－	108	
応用化学専攻(D)	10	－	30	
化学物理工学専攻(M)	47	－	94	
化学物理工学専攻(D)	6	－	18	
機械システム工学専攻(M)	76	－	152	
機械システム工学専攻(D)	14	－	42	
知能情報システム工学専攻(M)	86	－	172	
知能情報システム工学専攻(D)	10	－	30	
産業技術専攻(P)	40	－	80	
共同サステイナビリティ研究専攻(D)	4	－	12	
農学府				
農学専攻(M)	174	－	348	
共同獣医学専攻(4年制D)	10	－	40	
	0	－	0	令和9年4月学生募集停止
	0	－	0	令和9年4月学生募集停止
先進学際科学府				
先進学際科学専攻(M)	99	－	198	
先進学際科学専攻(D)	27	－	81	専攻の設置(届出)
共同先進健康科学専攻(D)	6	－	18	専攻の設置(届出)
連合農学研究科				
生物生産科学専攻(D)	15	－	45	
応用生命科学専攻(D)	10	－	30	
環境資源共生科学専攻(D)	10	－	30	
農業環境工学専攻(D)	4	－	12	
農林共生社会科学専攻(D)	6	－	18	
	821		1,803	

別記様式第２号・別添１

（用紙　日本産業規格A4縦型）

設置の前後における学位等及び基幹教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	基幹教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	基幹教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
生物システム応用科学府 共同先進健康科学専攻（廃止）	博士（生命科学）	理学関係 農学関係 工学関係	先進学際科学府 共同先進健康科学専攻	7	6	先進学際科学府 共同先進健康科学専攻	博士（生命科学）	理学関係 農学関係 工学関係	生物システム応用科学府 共同先進健康科学専攻	7	6
			計	7	6				計	7	6
			計						計		

別記様式第２号・別添２

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　礎　と　な　る　学　部　等　の　改　編　状　況

開設又は改編時期	改　編　内　容　等	学　位　又　は　学　科　の　分　野	手続きの区分
平成7年4月	大学院生物システム応用科学研究科（博士課程）　設置	農学関係、工学関係	設置認可（研究科）
平成7年4月	生物システム応用科学専攻　設置	農学関係、工学関係	設置認可（専攻）
平成16年4月	大学院生物システム応用科学研究科→大学院生物システム応用科学教育部　設置	農学関係、工学関係	設置認可（研究科）
平成18年4月	大学院生物システム応用科学教育部→大学院生物システム応用科学府	農学関係、工学関係	名称変更（研究科）
平成22年4月	共同先進健康科学専攻（後期3年の課程のみの博士課程）　設置	理学関係、農学関係、工学関係	設置届出（専攻）
平成27年4月	生物機能システム科学専攻（博士前期・後期課程）　設置	農学関係、工学関係	設置届出（専攻）
平成27年4月	食料エネルギーシステム科学専攻（一貫制博士課程）　設置	農学関係、工学関係	設置届出（専攻）
平成27年4月	生物システム応用科学専攻の学生募集停止	－	学生募集停止（専攻）
令和7年4月	大学院先進学際科学府　設置	農学関係、工学関係	設置届出（研究科）
令和7年4月	先進学際科学専攻（修士課程）　設置	農学関係、工学関係	設置届出（専攻）
令和7年4月	生物機能システム科学専攻（博士前期課程）、食料エネルギーシステム科学専攻の学生募集停止	－	学生募集停止（専攻）
令和9年4月	先進学際科学専攻（修士課程→博士前期課程）　課程変更	農学関係、工学関係	設置届出（専攻）
令和9年4月	先進学際科学専攻（博士後期課程）　設置	農学関係、工学関係	設置届出（専攻）
令和9年4月	共同先進健康科学専攻（後期3年の課程のみの博士課程）　設置	理学関係、農学関係、工学関係	設置届出（専攻）
令和9年4月	大学院生物システム応用科学府の学生募集停止	－	学生募集停止（研究科）
令和9年4月	生物機能システム科学専攻（博士後期課程）、共同先進健康科学専攻の学生募集停止	－	学生募集停止（専攻）

別記様式第２号（その２の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 共 同 学 科 等 ）

（東京農工大学大学院　先進学際科学府　共同先進健康科学専攻）
（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	開設大学	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
実践英語教育科目		Doctoral Student Technical Writing	1･2前･後		早稲田大学		1		○								2	
		Doctoral Student Presentation Skills	1・2後		早稲田大学		1		○								1	
		小計（2科目）	－	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	2	
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅱ	1・2後		東京農工大学		2		○			1						
		生命科学特論Ⅲ	1・2後		東京農工大学		2		○			1						
		生命科学特論Ⅳ	1・2前		早稲田大学		2		○								3	オムニバス方式
		生命科学特論Ⅴ	1・2後		早稲田大学		2		○			1						
		小計（4科目）	－	－	－	0	8	0	－			3	0	0	0	0	3	
	環境科学	環境科学特論Ⅰ	1・2前		東京農工大学		2		○			1						隔年
		環境科学特論Ⅱ	1・2前		東京農工大学		2		○			1						
		環境科学特論Ⅲ	1・2後		早稲田大学		2		○			2					1	オムニバス方式
		環境科学特論Ⅴ	1前		早稲田大学		2		○			1						
		小計（4科目）	－	－	－	0	8	0	－			4	0	0	0	0	1	
	食科学	食科学特論Ⅰ	1・2前		東京農工大学		2		○			1						
		食科学特論Ⅱ	1・2後		東京農工大学		2		○			1						
		食科学特論Ⅳ	1・2前		東京農工大学		2		○				1					
		小計（3科目）	－	－	－	0	6	0	－			2	1	0	0	0	0	
	総合科目	感染症総合管理学	1前		早稲田大学		2		○			1						隔年
		先進健康科学特論	2後		早稲田大学/東京農工大学		2		○			9	1				3	
		小計（2科目）	－	－	－	0	4	0	－			9	1	0	0	0	3	
	演習科目	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		早稲田大学/東京農工大学	8				○		9	1				3	
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		早稲田大学/東京農工大学	4				○		9	1				3	
		先進健康科学セミナーⅡ	2通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		先進健康科学セミナーⅢ	3通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		実地研修研究特論	1・2・3通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		小計（6科目）	－	－	－	12	16	0	－			9	1	0	0	0	3	
	研究倫理系科目	研究倫理概論Ａ	1前		早稲田大学		1		○								1	
		研究倫理概論Ｂ	1後		早稲田大学		1		○								1	
		Ethics and Research	1前・後		早稲田大学		1		○								1	
		サイエンスコミュニケーションと研究倫理	1後		早稲田大学		2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	－	0	5	0	－			0	0	0	0	0	3	
研究倫理系科目		研究倫理	1・2・3通		東京農工大学		1		○			1						
		小計（1科目）	－	－	－	0	1	0	－			1	0	0	0	0	0	
合計（26科目）			－	－	－	12	50	0	－			9	1	0	0	0	11	

学位	博士（生命科学）	学位の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	開設大学	開設単位数（必修）	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	東京農工大学	45(12)	１学年の学期区分	2学期
	早稲田大学	47(12)	１学期の授業期間	東京農工大学　15週 早稲田大学　14週
			１時限の授業の標準時間	東京農工大学　90分 早稲田大学　100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（東京農工大学大学院　先進学際科学府　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅱ	1・2後			2		○			1						
		生命科学特論Ⅲ	1・2後			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	0	
	環境科学	環境科学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
		環境科学特論Ⅱ	1・2前			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	0	
	食科学	食科学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						
		食科学特論Ⅱ	1・2後			2		○			1						
		食科学特論Ⅳ	1・2前			2		○				1					
		小計（3科目）	－	－	0	6	0	－			2	1	0	0	0	0	
	総合科目	先進健康科学特論	2後			2		○			6	1					
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			6	1	0	0	0	0	
演習科目		先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		8				○		6	1					
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		4				○		6	1					
		先進健康科学セミナーⅡ	2通			4			○		6	1					
		先進健康科学セミナーⅢ	3通			4			○		6	1					
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通			4			○		6	1					
		実地研修研究特論	1・2・3通			4			○		6	1					
		小計（6科目）	－	－	12	16	0	－			6	1	0	0	0	0	
研究倫理系科目		研究倫理	1・2・3通			1		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	1	0	－			1	0	0	0	0	0	
合計（15科目）			－	－	12	33	0	－			6	1	0	0	0	0	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

府中キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（東京農工大学大学院　先進学際科学府　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅱ	1・2後			2		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	
	環境科学	環境科学特論Ⅱ	1・2前			2		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	
	食科学	食科学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	1	0	0	0	0	
	総合科目	先進健康科学特論	2後			2		○			3						
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			3	0	0	0	0	0	
演習科目		先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		8				○		3						
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		4				○		3						
		先進健康科学セミナーⅡ	2通			4			○		3						
		先進健康科学セミナーⅢ	3通			4			○		3						
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通			4			○		3						
		実地研修研究特論	1・2・3通			4			○		3						
		小計（6科目）	－	－	12	16	0	－			3	0	0	0	0	0	
合計（10科目）			－	－	12	24	0	－			3	0	0	0	0	0	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

小金井キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（東京農工大学大学院　先進学際科学府　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅲ	1・2後			2		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	
	環境科学	環境科学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	
	食科学	食科学特論Ⅱ	1・2後			2		○			1						
		食科学特論Ⅳ	1・2前			2		○				1					
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			1	1	0	0	0	0	
	総合科目	先進健康科学特論	2後			2		○			3	1					
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			3	1	0	0	0	0	
演習科目		先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		8				○		3	1					
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		4				○		3	1					
		先進健康科学セミナーⅡ	2通			4			○		3	1					
		先進健康科学セミナーⅢ	3通			4			○		3	1					
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通			4			○		3	1					
		実地研修研究特論	1・2・3通			4			○		3	1					
		小計（6科目）	－	－	12	16	0	－			3	1	0	0	0	0	
研究倫理系科目		研究倫理	1・2・3通			1		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	1	0	－			1	0	0	0	0	0	
合計（12科目）			－	－	12	27	0	－			3	1	0	0	0	0	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
実践英語教育科目		Doctoral Student Technical Writing	1･2前･後			1		○								2	
		Doctoral Student Presentation Skills	1・2後			1		○								1	
		小計（2科目）	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	2	
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅳ	1・2前			2		○								3	オムニバス方式
		生命科学特論Ⅴ	1・2後			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			1	0	0	0	0	3	
	環境科学	環境科学特論Ⅲ	1・2後			2		○			2					1	オムニバス方式
		環境科学特論Ⅴ	1前			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	1	
	総合科目	感染症総合管理学	1前			2		○			1						隔年
		先進健康科学特論	2後			2		○			3					3	
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			3	0	0	0	0	3	
演習科目	演習科目	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		8				○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		4				○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅡ	2通			4			○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅢ	3通			4			○		3					3	
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通			4			○		3					3	
		実地研修研究特論	1・2・3通			4			○		3					3	
		小計（6科目）	－	－	12	16	0	－			3	0	0	0	0	3	
	研究倫理系科目	研究倫理概論Ａ	1前			1		○								1	
		研究倫理概論Ｂ	1後			1		○								1	
		Ethics and Research	1前・後			1		○								1	
		サイエンスコミュニケーションと研究倫理	1後			2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	0	5	0	－			0	0	0	0	0	3	
合計（18科目）			－	－	12	35	0	－			3	0	0	0	0	11	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

西早稲田キャンパス

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
科目	実践英語教育	Doctoral Student Technical Writing	1･2前･後			1		○								2	
		Doctoral Student Presentation Skills	1・2後			1		○								1	
		小計（2科目）	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	2	
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅴ	1・2後			2		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	
	環境科学	環境科学特論Ⅴ	1前			2		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	
	総合科目	先進健康科学特論	2後			2		○			3					3	
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			3	0	0	0	0	3	
演習科目	演習科目	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		8				○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		4				○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅡ	2通			4			○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅢ	3通			4			○		3					3	
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通			4			○		3					3	
		実地研修研究特論	1・2・3通			4			○		3					3	
		小計（6科目）	－	－	12	16	0	－			3	0	0	0	0	3	
	研究倫理系科目	研究倫理概論Ａ	1前			1		○								1	
		研究倫理概論Ｂ	1後			1		○								1	
		Ethics and Research	1前・後			1		○								1	
		サイエンスコミュニケーションと研究倫理	1後			2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	0	5	0	－			0	0	0	0	0	3	
合計（15科目）			－	－	12	29	0	－			3	0	0	0	0	8	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の１）

先端生命医科学センター(TWIns)

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅳ	1・2前			2		○								3	オムニバス方式
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	3	
	環境科学	環境科学特論Ⅲ	1・2後			2		○			2					1	オムニバス方式
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			2	0	0	0	0	1	
	総合科目	感染症総合管理学	1前			2		○			1						隔年
		小計（1科目）	－	－	0	2	0	－			1	0	0	0	0	0	
合計（3科目）			－	－	0	6	0	－			2	0	0	0	0	4	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その２の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教 育 課 程 等 の 概 要 （ 共 同 学 科 等 ）

（東京農工大学大学院　生物システム応用科学府　共同先進健康科学専攻）
（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	開設大学	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
実践英語教育科目		Doctoral Student Technical Writing	1･2前･後		早稲田大学		1		○								2	
		Doctoral Student Presentation Skills	1・2後		早稲田大学		1		○								1	
		小計（2科目）	－	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	2	
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅱ	1・2後		東京農工大学		2		○			1						
		生命科学特論Ⅲ	1・2後		東京農工大学		2		○			1						
		生命科学特論Ⅳ	1・2前		早稲田大学		2		○								4	オムニバス方式
		生命科学特論Ⅴ	1・2後		早稲田大学		2		○			1						
		小計（4科目）	－	－	－	0	8	0	－			3	0	0	0	0	4	
	環境科学	環境科学特論Ⅰ	1・2前		東京農工大学		2		○			1						隔年
		環境科学特論Ⅱ	1・2前		東京農工大学		2		○			1						
		環境科学特論Ⅲ	1・2後		早稲田大学		2		○			2					1	オムニバス方式
		環境科学特論Ⅴ	1前		早稲田大学		2		○			1						
		小計（4科目）	－	－	－	0	8	0	－			4	0	0	0	0	1	
	食科学	食科学特論Ⅰ	1・2前		東京農工大学		2		○			1						
		食科学特論Ⅱ	1・2後		東京農工大学		2		○			1						
		食科学特論Ⅳ	1・2前		東京農工大学		2		○				1					
		小計（3科目）	－	－	－	0	6	0	－			2	1	0	0	0	0	
	総合科目	感染症総合管理学	1前		早稲田大学		2		○			1						隔年
		先進健康科学特論	2後		早稲田大学/東京農工大学		2		○			9	1				3	
		小計（2科目）	－	－	－	0	4	0	－			9	1	0	0	0	3	
演習科目	演習科目	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		早稲田大学/東京農工大学	8				○		9	1				3	
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		早稲田大学/東京農工大学	4				○		9	1				3	
		先進健康科学セミナーⅡ	2通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		先進健康科学セミナーⅢ	3通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		実地研修研究特論	1・2・3通		早稲田大学/東京農工大学		4			○		9	1				3	
		小計（6科目）	－	－	－	12	16	0	－			9	1	0	0	0	3	
	研究倫理系科目	研究倫理概論Ａ	1前		早稲田大学		1		○								1	
		研究倫理概論Ｂ	1後		早稲田大学		1		○								1	
		Ethics and Research	1前・後		早稲田大学		1		○								1	
		サイエンスコミュニケーションと研究倫理	1後		早稲田大学		2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	－	0	5	0	－			0	0	0	0	0	3	
研究倫理系科目		研究倫理	1・2・3通		東京農工大学		1		○			1	0	0	0	0	0	
		小計（1科目）	－	－	－	0	1	0	－			1	0	0	0	0	0	
合計（26科目）			－	－	－	12	50	0	－			9	1	0	0	0	11	

学位	博士（生命科学）	学位の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	開設大学	開設単位数（必修）	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	東京農工大学	45(12)	１学年の学期区分	2学期
	早稲田大学	47(12)	１学期の授業期間	東京農工大学　15週 早稲田大学　14週
			１時限の授業の標準時間	東京農工大学　90分 早稲田大学　100分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（東京農工大学大学院　生物システム応用科学府　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅱ	1・2後			2		○			1						
		生命科学特論Ⅲ	1・2後			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0		－		2	0	0	0	0	0	
	環境科学	環境科学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						隔年
		環境科学特論Ⅱ	1・2前			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0		－		2	0	0	0	0	0	
	食科学	食科学特論Ⅰ	1・2前			2		○			1						
		食科学特論Ⅱ	1・2後			2		○			1						
		食科学特論Ⅳ	1・2前			2		○				1					
		小計（3科目）	－	－	0	6	0		－		2	1	0	0	0	0	
	総合科目	先進健康科学特論	2後			2		○			6	1					
		小計（1科目）	－	－	0	2	0		－		6	1	0	0	0	0	
演習科目		先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		8				○		6	1					
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		4				○		6	1					
		先進健康科学セミナーⅡ	2通			4			○		6	1					
		先進健康科学セミナーⅢ	3通			4			○		6	1					
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通			4			○		6	1					
		実地研修研究特論	1・2・3通			4			○		6	1					
		小計（6科目）	－	－	12	16	0		－		6	1	0	0	0	0	
研究倫理系科目		研究倫理	1・2・3通			1		○			1						
		小計（1科目）	－	－	0	1	0		－		1	0	0	0	0	0	
合計（15科目）			－	－	12	33	0		－		6	1	0	0	0	0	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業の標準時間	90分

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	基幹教員等の配置 教授	基幹教員等の配置 准教授	基幹教員等の配置 講師	基幹教員等の配置 助教	基幹教員等の配置 助手	基幹教員等の配置 基幹教員以外の教員（助手を除く）	備考
実践英語教育科目		Doctoral Student Technical Writing	1･2前･後			1		○								2	
		Doctoral Student Presentation Skills	1・2後			1		○								1	
		小計（2科目）	－	－	0	2	0	－			0	0	0	0	0	2	
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅳ	1・2前			2		○								4	オムニバス方式
		生命科学特論Ⅴ	1・2後			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			1	0	0	0	0	4	
	環境科学	環境科学特論Ⅲ	1・2後			2		○			2					1	オムニバス方式
		環境科学特論Ⅴ	1前			2		○			1						
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			2	0	0	0	0	1	
	総合科目	感染症総合管理学	1前			2		○			1						隔年
		先進健康科学特論	2後			2		○			3					3	
		小計（2科目）	－	－	0	4	0	－			3	0	0	0	0	3	
演習科目	演習科目	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ	1前		8				○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅠ	1通		4				○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅡ	2通			4			○		3					3	
		先進健康科学セミナーⅢ	3通			4			○		3					3	
		実践プレゼンテーション特論Ⅱ	1・2・3通			4			○		3					3	
		実地研修研究特論	1・2・3通			4			○		3					3	
		小計（6科目）	－	－	12	16	0	－			3	0	0	0	0	3	
	研究倫理系科目	研究倫理概論Ａ	1前			1		○								1	
		研究倫理概論Ｂ	1後			1		○								1	
		Ethics and Research	1前・後			1		○								1	
		サイエンスコミュニケーションと研究倫理	1後			2		○								1	
		小計（4科目）	－	－	0	5	0	－			0	0	0	0	0	3	
合計（18科目）			－	－	12	35	0	－			3	0	0	0	0	12	

学位又は称号	博士（生命科学）	学位又は学科の分野	理学関係、農学関係、工学関係

卒業・修了要件及び履修方法	授業期間等	
実践英語教育科目から1単位以上、専門科目のいずれかの選択科目4単位以上、演習科目の必修科目2科目12単位、研究倫理系科目から選択必修1単位以上の合計18単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び最終試験に合格すること。	１学年の学期区分	2学期
	１学期の授業期間	14週
	１時限の授業の標準時間	100分

別記様式第２号（その３の２）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授業科目の概要（共同学科等）

（東京農工大学大学院　先進学際科学府　共同先進健康科学専攻）
（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分	開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
実践英語教育科目	早稲田大学	Doctoral Student Technical Writing		In this course students will learn the main aspects of the publishing process of research articles, from writing a manuscript, submitting it to a journal, and dealing with reviewer's comments. （和訳）受講者は、原稿の執筆から学術誌への投稿、審査員のコメントへの対応まで、研究論文の公表までの過程における主要なポイントを学ぶ。	
	早稲田大学	Doctoral Student Presentation Skills		In this course, students will develop the oral presentation skills they need to present scientific and technical research findings in their specialist field to an international conference audience. （和訳）受講者が自らの専門分野において科学技術研究上の発見について国際会議で口頭でプレゼンテーションするために必要なスキルの向上を目指す。	
生命科学	東京農工大学	生命科学特論Ⅱ		農学、生命科学における最先端の知識・技術を学ぶことにより、応用生命化学分野における高度の専門能力をつけるための講義科目である。特に腫瘍生物学の領域において、最新の研究の理解に必要な知識を習得する。	
	東京農工大学	生命科学特論Ⅲ		【目的】知覚運動制御論は、ヒトの知覚と運動制御の原理を研究する学問である。この講義では、ヒトの高次脳機能に焦点を当て、特に「ボディマップ」を中心に学び、日常生活に見られる人間の運動行動の基本原理を学ぶことを目的とする。 【概要】「ボディマップ」を解説したテキストを読み、その内容の中から興味のあるトピックを選び、そのトピックの最新事例の研究を調査する。これらの調査内容をまとめたプレゼンテーションおよび討論を通して、ヒトの知覚と運動制御の原理と健康の関係性についての理解を深めていく。	
	早稲田大学	生命科学特論Ⅳ		授業は基本的に対面形式+オンライン形式で行う。 神経科学の最新の知識を得る。特に記憶・学習機能の細胞レベルでの深い理解および神経発生における広い分子生物学的理解を得る。 （オムニバス方式／全14回） （11　青木　吉嗣／1回） 神経科学について講義し、討論する。 （15　井上　貴文／4回） ガイダンス、神経科学概観、シナプス可塑性、神経細胞のイメージングについて講義し、討論する。 （16　大島　登志男／9回） 神経の発生・分化について講義し、討論する。	オムニバス方式
	早稲田大学	生命科学特論Ⅴ		細胞生物学・分子遺伝学に関する最新の知識を得る。特にモデル生物である出芽酵母を利用して細胞が環境変化や老化にどのように応答するのか、その仕組みの解明にむけた実験手法の理解を得る。	
	東京農工大学	環境科学特論Ⅰ		近年バイオ分野で技術革新をもたらした、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクス、バイオインフォマティクスの研究動向と解析手法を、生物化学を基礎とした解説と開発経緯の紹介の両面から学習する。これらの授業を経た後に、各学生が上記関連分野の英語論文等を読み、内容をまとめ発表を行う。授業内で問題提起、ディベートすることにより、学生同士の積極的に参加できる議論の場を設ける。	隔年
	東京農工大学	環境科学特論Ⅱ		昆虫は環境変化に素早く適応できる能力をその体構造や生理代謝機構において進化させた結果、地球上で大繁栄できたと考えられている。この仕組みを研究すると、ヒト科学に役立つヒントになる。一方で、これまで昆虫とヒトは進化的には全く違う生物として捉えられてきたが、昆虫にはヒトとよく似た遺伝子が多数存在し、加えてヒトと共通する生理代謝機構があることが明らかとなってきた。本講義では担当教員の研究成果を中心とした昆虫研究を概説するとともに、その応用例を紹介する。そして、将来的に昆虫が社会実装可能かについて参加者同士が議論することで理解を深める。	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	環境科学	早稲田大学	環境科学特論Ⅲ		生物の構成成分であるDNA、RNA、タンパク質等の様々な生命分子をターゲットとした機能解析、改変、センシング等の研究報告を精査し、学生のプレゼンテーションを通じてディスカッションする。それにより各種要素技術を理解し、それらの応用分野である医療、環境等でどのように活用できるのかを考える。さらには、サイエンスライティングの基礎と応用に関しても講義と実習を行うことで、研究者としてのスキルアップを行う。 （オムニバス方式／全14回） （7　竹山　春子／9回） ガイダンス、各講義に対するレポート発表と総括を行う。 （8　細川　正人／2回） 先端バイオ技術：NGS、シングルセル解析、空間オミックス解析について講義する。 （21　福崎　英一郎／3回） メタボロミクスの原理、メタボロミクスの応用（基礎生物学・メディカル分野、微生物・食品分野について講義する。	オムニバス方式
		早稲田大学	環境科学特論Ⅴ		環境科学に関わる広い研究領域に関わる研究論文を広く調査し、研究推進に必要な情報を整理し、研究上の課題を見つけて新たな問いを打ち立てるプロセスを学ぶ。研究領域としては、オミクス解析、バイオインフォマティクス、バイオ計測技術などを対象とする。毎講義で新たな論文を選び、学生は事前に通読した上で論文内容を講義で紹介する。論文調査を通じて体系的に学んだ情報を生かして、実際に研究論文の構成検討・執筆を行う。活動を通じて、研究領域の背景を改めて理解し自身の研究の意義を明確化し、専門家のみならず外部者からも理解を得るための情報整理・発信のアプローチを学ぶ。以上により、当専攻の掲げるカリキュラム・ポリシーに基づき、環境科学分野における知識をつけ、博士研究論文執筆や査読付き英語論文投稿に向けた研究力の基盤を強化し、他科目と連携して独創的な研究展開力、課題設定力、技術開発力を習得する。	
	食科学	東京農工大学	食科学特論Ⅰ		食品の成分や機能について学ぶ。免疫系の細胞や機能、制御機構について学ぶ。食品による免疫調節の実例、機序、応用について学ぶ。	
		東京農工大学	食科学特論Ⅱ		食品を開発する上で、生物評価は不可欠である。正常あるいは疾患状態を人為的に作製する「実験的評価モデル」、遺伝的に病的異常を自然発症する「自然発症評価モデル」および「遺伝子工学的手法を用いて作製した疾患評価モデル」に分類される。本講義では、これら食科学の評価について教授する。	
		東京農工大学	食科学特論Ⅳ		本講義では、フードテックの最新技術とその応用事例について学ぶ。具体的には、機能性食品の開発、生合成経路解析、持続可能な食料生産技術に焦点を当て、微細藻類、昆虫、培養肉などの革新的な食品素材を例に取り上げる。また、ゲノム解析やオミクス解析といったバイオインフォマティクス技術が、どのように食科学や地球規模の食料問題における課題解決に貢献するかを議論する。本講義を通じて、食科学における最新技術を理解し、応用するための知識とスキルを養う。	
		早稲田大学	感染症総合管理学		感染症の発症メカニズムおよび過去・現在・未来に問題となる感染症を病原体と宿主の両面から解説する。感染症危機対応や感染症対策のための疫学研究、さらには診断・予防・治療法の研究について解説する。感染症に対して人類がどのように闘っているか、また、その中で国立感染症研究所などの専門機関がはたしている機能についても解説する。なおこの科目は対面で行う。	隔年

科目区分		開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	総合科目	早稲田大学/東京農工大学	先進健康科学特論		研究者の進捗状況を自ら把握し、今後の研究方針を再確認することを目的とし、これまでの研究成果をまとめ、過去の報告を参考にして結果を解釈し、プレゼンテーション資料を作成する。プレゼンテーション時には質疑応答に適切に対応するとともに、今後の展望について説明する。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）創薬化学、ケミカルバイオロジー、腫瘍生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、 情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		早稲田大学/東京農工大学	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論I		広く俯瞰的な科学的視野を持った研究者の育成目標とし、新規課題に対する調査能力を身につけるため、博士後期課程の研究テーマとは異なる研究課題について詳細な文献調査を行い、研究課題の総説、プレゼンテーション用資料を作成し、口答発表する訓練を行う。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）創薬化学、ケミカルバイオロジー、腫瘍生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、 情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		早稲田大学/東京農工大学	先進健康科学セミナーI		最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対する考察する能力、また研究成果を論文化する能力を養う。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）創薬化学、ケミカルバイオロジー、腫瘍生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、 情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	

科目区分		開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
演習科目	演習科目	早稲田大学/東京農工大学	先進健康科学セミナーⅡ		「先進健康科学セミナーⅠ」で習得した研究能力を活用し、最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、より具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対して深く考察する能力、また研究成果を論文化する能力を向上させる。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）創薬化学、ケミカルバイオロジー、腫瘍生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、 情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		早稲田大学/東京農工大学	先進健康科学セミナーⅢ		これまでに習得した研究能力を活用し、最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、更に具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対してより深く考察する能力、また研究成果を論文化する能力を向上させる。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）創薬化学、ケミカルバイオロジー、腫瘍生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、 情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		早稲田大学/東京農工大学	実践プレゼンテーション特論Ⅱ		研究の成果を当該分野の研究者及び異分野研究者に対して英語にて分かりやすく伝え、かつ専門的な議論を行う能力を養う。「先進健康科学セミナーⅠ~Ⅲ」で養ったプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力およびディスカッション能力、実践英語教育科目で養った英語コミュニケーション能力を国際学会発表が可能なレベルにまで研鑽して実践すること、さらに他者の研究成果や発表技術を学ぶことにより、それらの能力における自らの課題を整理、認識することを目標とする。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）創薬化学、ケミカルバイオロジー、腫瘍生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、 情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		早稲田大学/東京農工大学	実地研修研究特論		自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業、団体へのインターンシップに参加し、将来のキャリアに対する目的意識を養うとともに、実地研究、リスクマネジメント研修、ビジネスマナー研修を通して、研究開発から事業化までの包括的なマネジメントを掌握する研究コーディネーター、事業コーディネーターの養成を目標とする。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）創薬化学、ケミカルバイオロジー、腫瘍生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、 情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	

科目区分	開設大学	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
研究倫理系科目	早稲田大学	研究倫理概論Ａ		前期開講授業。本講義は、地球社会に主体的に貢献できる人材の育成のため、人文・社会科学系学問分野の体系的な学修を通じて、自らの専門だけではない多様な学問・文化・言語・価値観との交流を育むことを目的として開講する。研究倫理には大別して「研究のための倫理」と、「研究についての倫理」の２つがあるように思われるが、本講義の力点は後者にある。本講義を通じて、自らがふだん行っている研究についてあらためて見直す機会を提供する。	
	早稲田大学	研究倫理概論Ｂ		後期開講授業。本講義は、地球社会に主体的に貢献できる人材の育成のため、人文・社会科学系学問分野の体系的な学修を通じて、自らの専門だけではない多様な学問・文化・言語・価値観との交流を育むことを目的として開講する。研究倫理には大別して「研究のための倫理」と、「研究についての倫理」の２つがあるように思われるが、本講義の力点は後者にある。本講義を通じて、自らがふだん行っている研究についてあらためて見直す機会を提供する。	
	早稲田大学	Ethics and Research		The purpose of this course is to help students become ethically and socially responsible researchers. What we need is to learn to think ethically and be good inquirers. This course introduces students to foundational ideas in ethics and invites them to think for themselves. Students will have the opportunity to reflect on issues related to scientific misconducts (such as fabrication, falsification, and pl agiarism), conflict of interest, and other ethical issues through the lens of basic moral theories. （和訳）本講義の目的は、学生が倫理的・社会的責任を自覚した研究者となることを支援することです。必要なのは倫理的に思考し、優れた探究者となることを学ぶことです。本講義では倫理学の基礎概念を紹介し、学生が自ら考えることを促します。学生は基本的な道徳理論の観点から、科学的不正行為（捏造、改竄、剽窃など）、利益相反、その他の倫理的問題について考察する機会を得ます。	
	早稲田大学	サイエンスコミュニケーションと研究倫理		サイエンスライティング、サイエンスプレゼンテーションなどを含んだサイエンスコミュニケーションの能力と研究倫理の考え方を理論と実践を通して習得させることを目的として、それぞれの分野で業績・実績豊富な講師とともにインタラクティブな講義を実施します。 科学技術は、現在ならびに将来の人々に対して大きな影響を与えるがゆえに倫理的責任も負うことになります。現在、国際水準の科学技術に係る研究領域では、「責任ある研究行為」（RCR: Responsible Conduct of Research）が求められ、その教育・調査・監督は大学・研究機関の社会的責務となっています。一方、国際的に信頼される研究者になるためには、研究倫理（RE: Research Ethics）ならびに研究の誠実・正確・効率・客観性（RI:Research Integrity）を習得しておくことが必要不可欠となります。本講義では、特に研究倫理と研究の誠実・正確・効率・客観性に関わる基本的事項や関連諸制度についての理解を深めます。	
研究倫理系科目	東京農工大学	研究倫理		本講義では、研究活動において尊守すべき倫理観について主にe-ラーニング教材を用いて学ぶ。研究者が直面する不正と認定される問題について具体的事例を知り、社会的責任を果たすための正しい知識を持つことを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授 業 科 目 の 概 要

（東京農工大学大学院　先進学際科学府　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅱ		農学、生命科学における最先端の知識・技術を学ぶことにより、応用生命化学分野における高度の専門能力をつけるための講義科目である。特に腫瘍生物学の領域において、最新の研究の理解に必要な知識を習得する。	
		生命科学特論Ⅲ		【目的】知覚運動制御論は、ヒトの知覚と運動制御の原理を研究する学問である。この講義では、ヒトの高次脳機能に焦点を当て、特に「ボディマップ」を中心に学び、日常生活に見られる人間の運動行動の基本原理を学ぶことを目的とする。 【概要】「ボディマップ」を解説したテキストを読み、その内容の中から興味のあるトピックを選び、そのトピックの最新事例の研究を調査する。これらの調査内容をまとめたプレゼンテーションおよび討論を通して、ヒトの知覚と運動制御の原理と健康の関係性についての理解を深めていく。	
	環境科学	環境科学特論Ⅰ		近年バイオ分野で技術革新をもたらした、ゲノミクス、トランスクリプトミクス、プロテオミクス、メタボロミクス、バイオインフォマティクスの研究動向と解析手法を、生物化学を基礎とした解説と開発経緯の紹介の両面から学習する。これらの授業を経た後に、各学生が上記関連分野の英語論文等を読み、内容をまとめ発表を行う。授業内で問題提起、ディベートすることにより、学生同士の積極的に参加できる議論の場を設ける。	隔年
		環境科学特論Ⅱ		昆虫は環境変化に素早く適応できる能力をその体構造や生理代謝機構において進化させた結果、地球上で大繁栄できたと考えられている。この仕組みを研究すると、ヒト科学に役立つヒントになる。一方で、これまで昆虫とヒトは進化的には全く違う生物として捉えられてきたが、昆虫にはヒトとよく似た遺伝子が多数存在し、加えてヒトと共通する生理代謝機構があることが明らかとなってきた。本講義では担当教員の研究成果を中心とした昆虫研究を概説するとともに、その応用例を紹介する。そして、将来的に昆虫が社会実装可能かについて参加者同士が議論することで理解を深める。	
	食科学	食科学特論Ⅰ		食品の成分や機能について学ぶ。免疫系の細胞や機能、制御機構について学ぶ。食品による免疫調節の実例、機序、応用について学ぶ。	
		食科学特論Ⅱ		食品を開発する上で、生物評価は不可欠である。正常あるいは疾患状態を人為的に作製する「実験的評価モデル」、遺伝的に病的異常を自然発症する「自然発症評価モデル」および「遺伝子工学的手法を用いて作製した疾患評価モデル」に分類される。本講義では、これら食科学の評価について教授する。	
		食科学特論Ⅳ		本講義では、フードテックの最新技術とその応用事例について学ぶ。具体的には、機能性食品の開発、生合成経路解析、持続可能な食料生産技術に焦点を当て、微細藻類、昆虫、培養肉などの革新的な食品素材を例に取り上げる。また、ゲノム解析やオミクス解析といったバイオインフォマティクス技術が、どのように食科学や地球規模の食料問題における課題解決に貢献するかを議論する。本講義を通じて、食科学における最新技術を理解し、応用するための知識とスキルを養う。	
	総合科目	先進健康科学特論		研究者の進捗状況を自ら把握し、今後の研究方針を再確認することを目的とし、これまでの研究成果をまとめ、過去の報告を参考にして結果を解釈し、プレゼンテーション資料を作成する。プレゼンテーション時には質疑応答に適切に対応するとともに、今後の展望について説明する。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）細胞生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
演習科目	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ		広く俯瞰的な科学的視野を持った研究者の育成目標とし、新規課題に対する調査能力を身につけるため、博士後期課程の研究テーマとは異なる研究課題について詳細な文献調査を行い、研究課題の総説、プレゼンテーション用資料を作成し、口答発表する訓練を行う。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）細胞生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）　バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助	
	先進健康科学セミナーⅠ		最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対する考察する能力、また研究成果を論文化する能力を養う。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）細胞生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）　バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助	
	先進健康科学セミナーⅡ		「先進健康科学セミナーⅠ」で習得した研究能力を活用し、最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、より具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対して深く考察する能力、また研究成果を論文化する能力を向上させる。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）細胞生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）　バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助	
	先進健康科学セミナーⅢ		これまでに習得した研究能力を活用し、最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、更に具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対してより深く考察する能力、また研究成果を論文化する能力を向上させる。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）細胞生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）　バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助	
	実践プレゼンテーション特論Ⅱ		研究の成果を当該分野の研究者及び異分野研究者に対して英語にて分かりやすく伝え、かつ専門的な議論を行う能力を養う。「先進健康科学セミナーⅠ~Ⅲ」で養ったプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力およびディスカッション能力、実践英語教育科目で養った英語コミュニケーション能力を国際学会発表が可能なレベルにまで研鑽して実践すること、さらに他者の研究成果や発表技術を学ぶことにより、それらの能力における自らの課題を整理、認識することを目標とする。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）細胞生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）　バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助	
	実地研修研究特論		自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業、団体へのインターンシップに参加し、将来のキャリアに対する目的意識を養うとともに、実地研究、リスクマネジメント研修、ビジネスマナー研修を通して、研究開発から事業化までの包括的なマネジメントを掌握する研究コーディネーター、事業コーディネーターの養成を目標とする。 （1　田中　秀幸）　身体運動科学、スポーツ健康科学、知覚認知心理学に関連した研究指導 （2　稲田　全規）　骨代謝学、筋代謝学、歯周病学に関連した研究指導 （3　鈴木　絵里子）細胞生物学に関連した研究指導 （4　田中　剛）　マリンバイオテクノロジー、バイオセンサ、 バイオイメージインフォマティクスに関連した研究指導 （5　天竺桂　弘子）生化学、分子生物学、昆虫学に関連した研究指導 （6　好田　正）　食品化学、食品免疫学、食品機能化学に関連した研究指導 （10　片岡　孝介）　バイオインフォマティクス、昆虫科学、神経科学に関連した研究指導補助	
研究倫理系科目	研究倫理		本講義では、研究活動において尊守すべき倫理観について主にe-ラーニング教材を用いて学ぶ。研究者が直面する不正と認定される問題について具体的事例を知り、社会的責任を果たすための正しい知識を持つことを目的とする。	

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授 業 科 目 の 概 要

（早稲田大学大学院　先進理工学研究科　共同先進健康科学専攻）

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
実践英語教育科目		Doctoral Student Technical Writing		In this course students will learn the main aspects of the publishing process of research articles, from writing a manuscript, submitting it to a journal, and dealing with reviewer's comments. （和訳）受講者は、原稿の執筆から学術誌への投稿、審査員のコメントへの対応まで、研究論文の公表までの過程における主要なポイントを学ぶ。	
		Doctoral Student Presentation Skills		In this course, students will develop the oral presentation skills they need to present scientific and technical research findings in their specialist field to an international conference audience. （和訳）受講者が自らの専門分野において科学技術研究上の発見について国際会議で口頭でプレゼンテーションするために必要なスキルの向上を目指す。	
専門科目	生命科学	生命科学特論Ⅳ		授業は基本的に対面形式+オンライン形式で行う。 神経科学の最新の知識を得る。特に記憶・学習機能の細胞レベルでの深い理解および神経発生における広い分子生物学的理解を得る。 （オムニバス方式／全14回） （11　青木　吉嗣／1回） 神経科学について講義し、討論する。 （15　井上　貴文／4回） ガイダンス、神経科学概観、シナプス可塑性、神経細胞のイメージングについて講義し、討論する。 （16　大島　登志男／9回） 神経の発生・分化について講義し、討論する。	オムニバス方式
		生命科学特論Ⅴ		細胞生物学・分子遺伝学に関する最新の知識を得る。特にモデル生物である出芽酵母を利用して細胞が環境変化や老化にどのように応答するのか、その仕組みの解明にむけた実験手法の理解を得る。	
	環境科学	環境科学特論Ⅲ		生物の構成成分であるDNA、RNA、タンパク質等の様々な生命分子をターゲットとした機能解析、改変、センシング等の研究報告を精査し、学生のプレゼンテーションを通じてディスカッションする。それにより各種要素技術を理解し、それらの応用分野である医療、環境等でどのように活用できるのかを考える。さらには、サイエンスライティングの基礎と応用に関しても講義と実習を行うことで、研究者としてのスキルアップを行う。 （オムニバス方式／全14回） （7　竹山　春子／9回） ガイダンス、各講義に対するレポート発表と総括を行う。 （8　細川　正人／2回） 先端バイオ技術：NGS、シングルセル解析、空間オミックス解析について講義する。 （21　福崎　英一郎／3回） メタボロミクスの原理、メタボロミクスの応用（基礎生物学・メディカル分野、微生物・食品分野について講義する。	オムニバス方式
		環境科学特論Ⅴ		環境科学に関わる広い研究領域に関わる研究論文を広く調査し、研究推進に必要な情報を整理し、研究上の課題を見つけて新たな問いを打ち立てるプロセスを学ぶ。研究領域としては、オミクス解析、バイオインフォマティクス、バイオ計測技術などを対象とする。毎講義で新たな論文を選び、学生は事前に通読した上で論文内容を講義で紹介する。論文調査を通じて体系的に学んだ情報を生かして、実際に研究論文の構成検討・執筆を行う。活動を通じて、研究領域の背景を改めて理解し自身の研究の意義を明確化し、専門家のみならず外部者からも理解を得るための情報整理・発信のアプローチを学ぶ。以上により、当専攻の掲げるカリキュラム・ポリシーに基づき、環境科学分野における知識をつけ、博士研究論文執筆や査読付き英語論文投稿に向けた研究力の基盤を強化し、他科目と連携して独創的な研究展開力、課題設定力、技術開発力を習得する。	
		感染症総合管理学		感染症の発症メカニズムおよび過去・現在・未来に問題となる感染症を病原体と宿主の両面から解説する。感染症危機対応や感染症対策のための疫学研究、さらには診断・予防・治療法の研究について解説する。感染症に対して人類がどのように闘っているか、また、その中で国立感染症研究所などの専門機関がはたしている機能についても解説する。なおこの科目は対面で行う。	隔年

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	総合科目	先進健康科学特論		研究者の進捗状況を自ら把握し、今後の研究方針を再確認することを目的とし、これまでの研究成果をまとめ、過去の報告を参考にして結果を解釈し、プレゼンテーション資料を作成する。プレゼンテーション時には質疑応答に適切に対応するとともに、今後の展望について説明する。 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）　バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）　細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）　健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）　運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
	演習科目	先進健康科学計画研究及び実践プレゼンテーション特論Ⅰ		広く俯瞰的な科学的視野を持った研究者の育成目標とし、新規課題に対する調査能力を身につけるため、博士後期課程の研究テーマとは異なる研究課題について詳細な文献調査を行い、研究課題の総説、プレゼンテーション用資料を作成し、口答発表する訓練を行う。 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）　バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）　細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）　健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）　運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		先進健康科学セミナーⅠ		最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対する考察する能力、また研究成果を論文化する能力を養う。 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）　バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）　細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）　健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）　運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		先進健康科学セミナーⅡ		「先進健康科学セミナーⅠ」で習得した研究能力を活用し、最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、より具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対して深く考察する能力、また研究成果を論文化する能力を向上させる。 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）　バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）　細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）　健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）　運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		先進健康科学セミナーⅢ		これまでに習得した研究能力を活用し、最新の学術研究論文から情報を摂取しながら、更に具体的な研究を実施し、研究の立案から成果のまとめに至る研究の一連の流れを体験し習得していく。得られた研究結果に対してより深く考察する能力、また研究成果を論文化する能力を向上させる。 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）　バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）　細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）　健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）　運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
演習科目		実践プレゼンテーション特論Ⅱ		研究の成果を当該分野の研究者及び異分野研究者に対して英語にて分かりやすく伝え、かつ専門的な議論を行う能力を養う。「先進健康科学セミナーⅠ~Ⅲ」で養ったプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力およびディスカッション能力、実践英語教育科目で養った英語コミュニケーション能力を国際学会発表が可能なレベルにまで研鑽して実践すること、さらに他者の研究成果や発表技術を学ぶことにより、それらの能力における自らの課題を整理、認識することを目標とする。 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）　バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）　細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）　健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）　運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
		実地研修研究特論		自らの専攻や将来のキャリアに関連した企業、団体へのインターンシップに参加し、将来のキャリアに対する目的意識を養うとともに、実地研究、リスクマネジメント研修、ビジネスマナー研修を通して、研究開発から事業化までの包括的なマネジメントを掌握する研究コーディネーター、事業コーディネーターの養成を目標とする。 （7　竹山　春子）　環境微生物、シングルセルゲノム解析、ラマンメタボロミクス、情報解析、生体オミックス解析に関連した研究指導 （8　細川　正人）　バイオマイクロデバイス、1細胞解析に関連した研究指導 （9　吉田　知史）　細胞生物学・分子遺伝学に関連した研究指導 （16　大島　登志男）神経科学、分子神経生物学に関連した研究指導 （18　宮地　元彦）　健康･スポーツ科学、応用生理学に関連した研究指導 （19　谷澤　薫平）　運動生理・生化学、スポーツ遺伝学、ゲノム疫学に関連した研究指導	
	研究倫理系科目	研究倫理概論Ａ		前期開講授業。本講義は、地球社会に主体的に貢献できる人材の育成のため、人文・社会科学系学問分野の体系的な学修を通じて、自らの専門だけではない多様な学問・文化・言語・価値観との交流を育むことを目的として開講する。研究倫理には大別して「研究のための倫理」と、「研究についての倫理」の２つがあるように思われるが、本講義の力点は後者にある。本講義を通じて、自らがふだん行っている研究についてあらためて見直す機会を提供する。	
		研究倫理概論Ｂ		後期開講授業。本講義は、地球社会に主体的に貢献できる人材の育成のため、人文・社会科学系学問分野の体系的な学修を通じて、自らの専門だけではない多様な学問・文化・言語・価値観との交流を育むことを目的として開講する。研究倫理には大別して「研究のための倫理」と、「研究についての倫理」の２つがあるように思われるが、本講義の力点は後者にある。本講義を通じて、自らがふだん行っている研究についてあらためて見直す機会を提供する。	
		Ethics and Research		The purpose of this course is to help students become ethically and socially responsible researchers. What we need is to learn to think ethically and be good inquirers. This course introduces students to foundational ideas in ethics and invites them to think for themselves. Students will have the opportunity to reflect on issues related to scientific misconducts (such as fabrication, falsification, and pl agiarism), conflict of interest, and other ethical issues through the lens of basic moral theories. （本講義の目的は、学生が倫理的・社会的責任を自覚した研究者となることを支援することです。必要なのは倫理的に思考し、優れた探究者となることを学ぶことです。本講義では倫理学の基礎概念を紹介し、学生が自ら考えることを促します。学生は基本的な道徳理論の観点から、科学的不正行為（捏造、改竄、剽窃など）、利益相反、その他の倫理的問題について考察する機会を得ます。）	
		サイエンスコミュニケーションと研究倫理		サイエンスライティング、サイエンスプレゼンテーションなどを含んだサイエンスコミュニケーションの能力と研究倫理の考え方を理論と実践を通して習得させることを目的として、それぞれの分野で業績・実績豊富な講師とともにインタラクティブな講義を実施します。 科学技術は、現在ならびに将来の人々に対して大きな影響を与えるがゆえに倫理的責任も負うことになります。現在、国際水準の科学技術に係る研究領域では、「責任ある研究行為」(RCR: Responsible Conduct of Research) が求められ、その教育・調査・監督は大学・研究機関の社会的責務となっています。一方、国際的に信頼される研究者になるためには、研究倫理 (RE: Research Ethics) ならびに研究の誠実・正確・効率・客観性 (RI:Research Integrity) を習得しておくことが必要不可欠となります。本講義では、特に研究倫理と研究の誠実・正確・効率・客観性に関わる基本的事項や関連諸制度についての理解を深めます。	